

## イタリア語学習者のための辞書案内

### 0. はじめに

このイタリア語辞書案内は、初級・中級の日本人学習者、特に本学東京外国語大学のイタリア語専攻で学ぶ人たちを対象にしたものである。したがって、イタリア人の日本語学習者を主に念頭に置いている、イタリアで出版された伊和・和伊辞典は取り扱わない。また、原則として、広くさまざまな語彙を取り上げている普通の平均的な辞書を取り扱い、ビジネスとか科学用語というようにある分野の専門用語に特化したものは除外した。

筆者がイタリア語に取り組み始めてから30年ほどが経過した。その間に、学習者の増加に応じて、イタリア語教材の数も種類も増えてはきたが、英独仏などの諸語に比べると、マーケットの規模ははるかに小さい。日本語を媒介としてイタリア語を学ぶ場合、ある程度本格的なレベルを目指すとなると、教科書にしる辞書にしる、選択肢はまだまだ非常に限られているのが実情である。

### 1. まずはさておき最初に揃える辞書

(1) [伊和中辞典](#) 改訂第2版 小学館

(2) [和伊中辞典](#) 第2版 小学館

まずはこの2冊を揃えてもらいたい。価格もそれぞれ7千円前後と同規模の英仏独の辞書よりも高く、また、初学者にはこれほどの大きさの辞書は必要ないと思う人がいるかもしれないが、東京外国語大学のイタリア語専攻で学ぶには、これよりも小さい辞書では、じきに、前期2年間の主専攻語科目の授業の予習・復習にさえ足りなくなる。

ただし、和伊辞典の購入は2年生からでも良いかもしれない。と言うのは、一般論として、初級の学習での和伊辞典の使用はあまりお勧めできないからである。語彙習得は（特に初学者にとっては）あくまでも学習したテキストの中の単語をその文脈に即して覚えていくのが基本であり、和伊辞典の使用はそのような基礎を十分に身に着けたうえで行なわなければならない。また、和伊辞典で知った単語を使うには、伊和辞典や伊伊辞典で十分にその用法を調べてからでなければならない、それには基本的な語学力が不可欠であろう。

なお、購入に際しては、版・刷などの違いに注意して、できるだけ最新のものを手に入れていただきたい（やむを得ず古書店を利用する場合も）。たとえば、(1)は、語数・説明の詳しきなどの点で、それ以前の伊和辞書よりも勝っていたとはいえ、最初の版が出たときには、(ある程度の誤植・誤記はやむをえなかったとしても) 不正確さや記述上の不統一などが目立ち、問題の多い辞書であった。その多くが、その後の版、特に今回の改訂で、改善されているので、是非ともその恩恵にあずかるべきである。

### 2. 伊伊辞典 — 中級以降の学習のために

初級のイタリア語学習で必要な辞書選びの話は以上で尽きているが、本稿では、もう少し先のレベルまで話を進めたい。中級以降、たとえば3年生のゼミでの文献講読などになると、上記の伊和辞典では用が足せない場合も出てくる。そうすると、どうしても海外で出版されている辞典、特に伊伊辞典に頼ることになる。また、伊和辞典の説明で情報としては一応足りている、という場合でも、イタリア語でイタリア語を説明している記述に当たってみるとは、語の理解を深めるのに有益である。

結局、将来イタリア語の専門家となる諸君には、できるだけ早くから、伊伊辞典に親しみ始めてもらうのが望ましいということになるので、そういう場合に選択肢に入りうる辞書を幾つか紹介したい。主に、何十年も版を重ねている定評のある辞書、筆者が若いころお世話になった先生方が使っておられ、その先生方のお勧めで筆者も使うようになった辞書（もちろん、古めかしい辞書、ということではなく、時代に合わせて改訂されてきているので、十分に現代的でもある）を重視したが、比較的最近の辞書も何冊か挙げておいた。

以下、各辞書について、「通称：フルネーム 出版社・出版年などの書誌情報 [その辞書の正式情報が掲載されているサイト]」のように記し、簡単なコメントを加えておく。どれも、ページ数2千～3千以上の規模で、価格は1万円前後、といったところである。学生のうちは、どれか一冊を購入して常用・愛用の辞書とし、他の辞書は図書館などで折に触れて参照するようにするのが良いであろう。

名称・出版年については、筆者の手元にあるのが最新の版・刷でなくても、読者の購入の便を考え、カタログなどで確かめられる限りにおいてできるだけ最新の版・刷のものを挙げるようにした。

(1) [Zingarelli : Vocabolario della lingua italiana di Nicola Zingarelli](#), Zanichelli, 2010

<http://consultazione.zanichelli.it/catalogo/prodotti/F057323B2FBCE64DC12575CF00391470/nicola-zingarelli/lo-zingarelli-2011/>

代表的なイタリア語辞典。例えて言えば、日本における広辞苑のような辞書か。文学のテキストには特に注意を払っている辞書であるように見える。ただ、語義・語法の説明は、イタリア人の読者のためのもので、特に外国人の学習者に親切にできているわけではない。この辞書は毎年改訂版が出るので、名称は、たとえば、2011年版であれば、Lo Zingarelli 2011のように呼ぶ。

(2) [Garzanti : Grande Dizionario di Italiano 2.0 con WEB-CD](#), Garzanti Linguistica, 2010.

<http://garzantilinguistica.sapere.it/it/catalogo/2478>

Garzanti 社のイタリア語辞典。学術的な論文などに引用されることは少ないが、いろいろな点で、外国人学習者にはこちらの辞書のほうがわかりやすいかも知れない。小学館の伊和中辞典・和伊中辞典の元となった辞書の1つなので、注意して読み比べてみると、説明の仕方や用例などに、似たものが見つかる。小学館の伊和辞典とは少し傾向の異なった辞書をもう一冊、という動機での購入には、適さないかもしれない。

(3) [Devoto- Oli : il Devoto-Oli. Vocabolario della lingua italiana 2011](#), Le Monnier, 2010.

<http://www.il-devoto-oli.it/>

著名な言語学者 Giacomo Devoto と Gian Carlo Oli の2人の手による辞書。わかりやすいわけでもなく、また、一般向けとも言い難いが、独特の味のある、示唆に富んだ語義の説明に特徴がある。また、学術的な論文などに引用されることも多い。かつて、イタリアでは、人文系の教員ならば使っているべき辞書とされていたものであるが、現在ではどうかは定かではない。

(4) DISC : il Sabatini Coletti. Dizionario della lingua italiana, Sansoni, 2008.

<http://www.sansoniscuola.it/dizionari/italiano.html>

著名な言語学者 Francesco Sabatini と歴史言語学者・文献学者 Vittorio Coletti の2人の手による辞書。伝統を引きずりがちなイタリア語の世界にあって、現代のイタリア語の姿に十分に注意を払っていること、意味・語義のみならず、文法・構文にも注意を払った説明が優れていることなど、さまざまな点で (少なくとも出版された当初は) 画期的な辞書であった。最初は Giunti 出版社から出版された (1997年) が、現在は、上記の通り、Sansoni 社から販売されているようである。

(5) [Il Treccani : il Vocabolario della lingua italiana](#), Istituto dell' Enciclopedia Italiana, 2008.

<http://www.treccanilibreria.it/vocabolario.aspx>

Treccani 社は、世界有数の規模を誇る百科事典の出版で知られているが、これは、その実力を遺憾なく生かして作られた辞書であると言えよう。ただ、外国人学習者が一冊目に買える伊伊辞典かどうかは、さまざまな理由で、また別の問題であろうが。

(6) De Mauro : Dizionario della lingua italiana, Paravia, 2000.

著名な言語学者 Tullio De Mauro による辞書。この本も、現代的で優れた辞書として有名で、オンラインでも使用することができたが、最近、オンラインでの公開が中止され、ちょっとした騒ぎになった。また、書籍版もしばらく前から入手が困難となっている (詳しくは <http://canali.kataweb.it/kataweb-itech/2009/10/07/il-de-mauro-online-scompare-ecco-i-dizionari-alternativi/> を参照)。幸いにして本学イタリア語研究室には一冊備えてある。

実は、この辞書でなければ利用できない情報はそれほど多くはない。と言うのは、同じ編者による、編集方針も良く似た、より大規模な (8巻本) 辞書である [Grande Dizionario Italiano dell'Uso, 2. ed.](#), UTET, 2007. [<http://cultura.utet.it/cultura/catalogo/details.jsp?id=633>] が存在しているからだが、これは図書館での利用をお勧めする。

### 3. 伊英辞典

伊和辞典よりも大きな辞書を使いたい、まだ伊伊辞典を使いこなすには至らない、という場合に、伊英・英伊辞典を使いたいという人もいるであろう。伊和辞典が今ほど整備されなかったころは、伊英辞典のお世話になることは非常に多かったが、今でも、また別の意味で、質の良い伊英・英伊辞典が役に立つことはあり得るであろう。

イタリアでも、英語教育熱の高まりに応じてか、非常に多くの数の英語の辞典が出版され

てきて、とてもすべてには目を通せないが、ここでは、山本が昔から知っている、定評と実績のある辞書 (の最新版) を、ほんの 2, 3 冊だけだが挙げておくことにする。

- (1) [Ragazzini : il Ragazzini 2011. Dizionario Inglese-Italiano, Italian-English dictionary di Giuseppe Ragazzini, Zanichelli, 2010.](#)  
[\[http://consultazione.zanichelli.it/catalogo/prodotti/2841E37BF3BC0971C1257654003B8E7A/giusepp-e-ragazzini/il-ragazzini-2011/\]](http://consultazione.zanichelli.it/catalogo/prodotti/2841E37BF3BC0971C1257654003B8E7A/giusepp-e-ragazzini/il-ragazzini-2011/)
- (2) [Hazon Garzanti : Grande Dizionario Hazon di Inglese con WEB-CD, Garzanti Linguistica, 2010.](#)  
[\[http://garzantilinguistica.sapere.it/it/catalogo/search?search=Hazon&commit=%C2%A0\]](http://garzantilinguistica.sapere.it/it/catalogo/search?search=Hazon&commit=%C2%A0)
- (3) Sansoni Inglese : Il Sansoni Inglese. Dizionario English-Italian Italiano-Inglese, Sansoni 2008.  
[\[http://www.sansoniscuola.it/dizionari/inglese.html\]](http://www.sansoniscuola.it/dizionari/inglese.html)

なお、英語以外に、当然、イタリア語＝フランス語、イタリア語＝ドイツ語などのようにほかの言語との組み合わせでも辞書が存在するが、(少なくとも本稿の想定する読者の間では) 需要が少ないと思うので、ここでは触れない。

#### 4. 電子化された辞書特に、コンピュータ上での辞書の利用

##### (1) 辞書に特化したハードウェアによる辞書

いわゆる狭義の電子辞書。買うならば、伊和・和伊辞典では、1で紹介した小学館の辞書に基づいたものを買えば良いと思う。セイコー、カシオなど、電子辞書で有名なメーカーが、販売しているようである。

セイコーインスツルメンツ <http://www.sii.co.jp/cp/products/otherlang/sre6000it/>

カシオ <http://casio.jp/exword/products/XD-SW7400/>

それ以外のイタリア語辞典を搭載したものも出回っている (例えばシャープの電子辞書の場合 <http://www.sharp.co.jp/papyrus/contents/card.html>) ようだが、どれだけ役に立つか保証できないので、注意されたい。

実は、電子辞書の使用は、初級の語学学習用にはあまりお勧めしたくない。その弊害はいろいろあるが、とりあえず、電子辞書を使うと、語義の説明をちゃんと全部読まず (画面が小さくてスクロールするのが億劫だから、あるいは、リンク機能で特定箇所にジャンプしてしまうから)、とりあえず目に付いた訳語で満足してしまう (そして、その結果、間違える)、ということが頻繁に起こりがちである、ということを指摘しておきたい。

なお、もちろん海外でもこのような電子辞書は販売されていて、イタリア語の辞書が搭載されている製品もある (たとえば、Zingarelli が搭載されているシャープの製品など <http://consultazione.zanichelli.it/i-dizionari-elettronici/e-dictionary-sharp/>)。しかし、このような海外仕様の電子辞書は、当然のことながら、(日本で発売されている製品ならば搭載されている) 日本語の他のさまざまな辞書・文献は入っていないので、平均的な日本人のユーザーには不便であろう。

##### (2) CD-ROM 版の辞書

1 で取り上げた小学館の辞書の CD-ROM 版は存在しない。

2、3 で取り上げた辞書の大部分が、CD・DVD-ROM 版でも出版されている。特に指定しなければ、デフォルトで、(紙の) 書籍版と CD・DVD-ROM 版とがセットになって販売されている (カタログなどには「CD-ROM 付」 con CD-ROM と書いてある) のが普通、ということも多い。

ただ、そのほとんどは MS-Windows 上での利用を想定したものであり、Mac OS 用の辞書は少なく、選択肢が限られている。

### (3) オンライン辞書

インターネット上のいろいろなサイトに、オンラインで用いることができるイタリア語の辞書が備え付けられているが、ここでは、定評のある出版社・編者の手になるもので、(単に1つ2つの訳語をあてがうだけではない) ある程度詳細な語義説明がなされているものを、幾つか挙げておく。

① il Grande Italiano di Aldo Gabrielli

<http://dizionari.repubblica.it/> (新聞社のサイト上に付設されている)

② il Sabatini Coletti Dizionario della Lingua Italiana

[http://dizionari.corriere.it/dizionario\\_italiano/](http://dizionari.corriere.it/dizionario_italiano/) (これも新聞社のサイト上に付設)

③ Garzanti Linguistica

<http://garzantilinguistica.sapere.it/> (使用には無料ユーザー登録が必要)

④ Sapere.it (De Agostini 出版社の運営するもの)

<http://www.sapere.it/sapere/dizionari.html>

⑤ Treccani

<http://www.treccani.it/portale/opencms/Portale/homePage.html>

### (4) その他

いわゆる PDA、i-phone やその他のスマートフォン、Linux などの環境での辞書のことや、オープンソースの辞書の話などは、残念ながら本稿では扱う余裕がない。また、Windows 上での辞書使用についても、取り上げるべき技術上の問題もある。これらについては、授業の際に、また、イタリア語専攻のウェブサイト (<http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ea2/ita/>) などを通して、有用だと思われる情報を提供していければと思っている。

(山本真司 准教授 イタリア語学担当)

### <付記>

本稿の欠落のいくつかを補ってくれる有益な情報を、経験豊かな MacOS ユーザーである、学部生の川原貞亮君が提供してくれた。川原君はそれについての報告書をまとめてくれたので、謝意を表しつつ、その報告書を以下に掲載させていただく。



## I Windows 以外のプラットフォームでのイタリア語辞書

イタリア語専攻 3 年 川原貞亮

筆者が常用している環境は Windows ではなく Mac なのでそれに焦点を当てて少し話を進めていきたいと思う。Mac OS X では標準でイタリア語の入力/表示がサポートされているが、残念な事にイタリア語の辞書は標準で組み込まれていない。

そこで、バージョン 10.5 より標準で小学館大辞泉やプログレッシブ英和・和英辞典や Wikipediaなどを串刺し検索できる「辞書.app」が搭載されているので、このアプリケーションで利用できる伊伊辞書のデータをこちら (<http://dizionario.altervista.org/download/>) よりダウンロードして追加できる。(なおイタリアの Spider-Mac User Group というアップル公認オンラインコミュニティの製作によるデータである。)

導入する手順としては、

(1) ダウンロードした Zip ファイルを解凍すると”Italian.dictionary”という名前のファイルが出てくるので、そのファイルを以下のディレクトリにコピーする。

//ライブラリ/Dictionaries/

図 1 のように標準で搭載されている辞書データがあるので同じところに置いてやればよい。

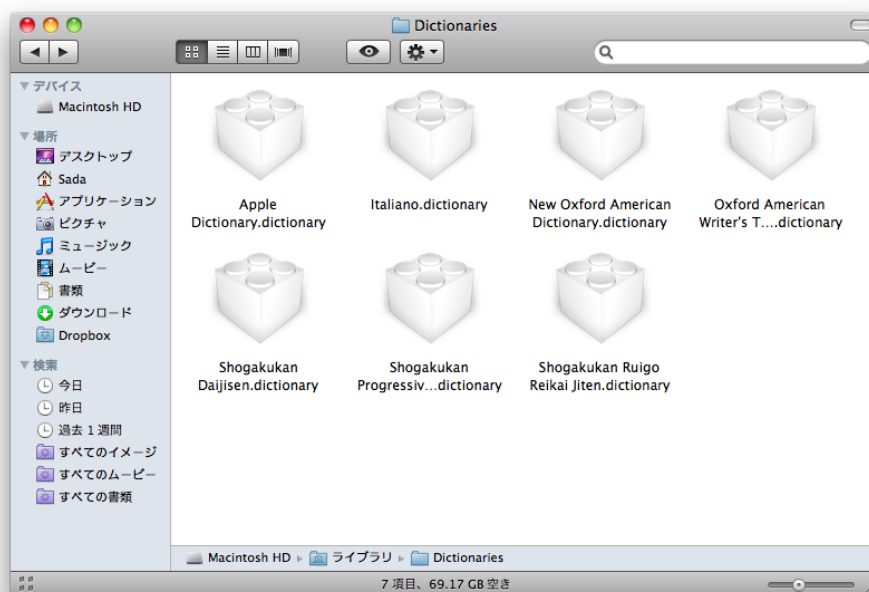


図 1 上記の画面のようにコピーされている事を確認する。

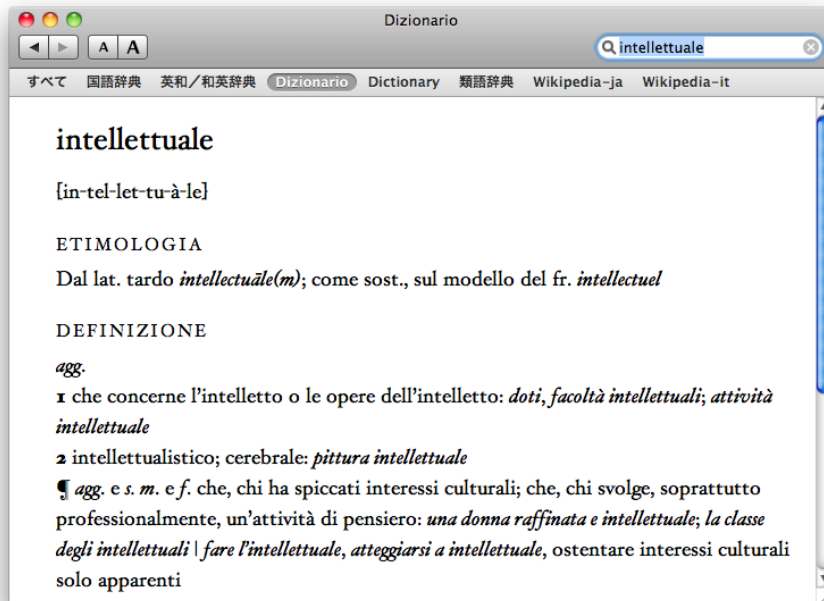
(2) アプリケーションフォルダにある辞書をクリックして起動し、メニューバー内の「環境設定...」を開いて(図 2)、Dizionario という項目が出来ている事を確認する。(図 3)



図 2 辞書と書いてあるメニューからか、コマンドキーとカンマを押しても良い。



図 3 上から三番目に出ている Dizionario という項目があれば正常に組み込まれている。  
以上の通り行ってやることで、標準の辞書アプリだけでなく、Spotlight やウェブページを閲覧している時に検索されるデータとして伊伊辞典が組み込まれる。



なお、1月6日よりMac OS 向けのアプリケーションを配信する Mac App Store というものがオープンしたが、残念ながら今の所イタリア語の辞書(伊和、和伊を問わず)はまだ配信されていないようだ。著作権の問題や需要の問題等解決すべき点は多々あるが、多プラットフォーム対応が進む事を切に希望したい。

## II iOS デバイス向けのイタリア語辞書

Mac OS と親和性の高いデバイスとして、iPhone に代表される iOS を搭載した機器がある。こちらについては小学館の伊和・和伊中辞典第二版をはじめ、Lo Zingarelli, Il Devoto-Oli などの収録語数の多い辞書が公式アプリケーションとして配信されている。が、伊和中辞典を除けば、言語学習に利用するというよりもイタリア語のネイティブスピーカーがリファレンスとして使用するレベルのものが中心で、まだまだ発展の余地があると思われる。

(2011年1月)